

「地域産業論」を新設

都立橋高、産業教育で新メニュー

講師は墨田の中小社長ら

東京都立橋高校（東京都墨田区、大室文之校長、03・3617・8311）は、地元の中小企業経営者らを講師に迎え「地域産業論」の授業を実施する。町工場が多い地元、墨田区の特徴を生かし「教科書にはない生の経営や産業論」（大室校長）を教える。対象は1年生の時に産業概論と陶芸、ガラス工芸、樹脂加工、食品加工などを履修した2年生。半時間の講座で毎年、10月からの後期課程に設置する。

視野広い人材育成狙う

授業を担当するのは、

ユーズの染谷ゆみ社長、深中メッキ工業の深田稔専務、浜野製作所の浜野慶一社長、森川製作所の森川明子社長、フットマークの磯部成文社長、久米繊維工業の久米信行社長と、一橋大学大学院商学研究科の関満博教授の7人。大室校長は、生徒や保護者に大企業や公務員志向が強いことについて、「産業界にはさまざまな立場で活躍する企業があることを、墨田区の高校ならではの視点で教えたい」と意欲を見せて

いる。

同校は07年4月に開校、産業界で活躍する人材育成を掲げ、モノづくりから販売までをトータルで学ぶ「産業科」を持つ。技能の精度や習熟度を重視する工業高校と違い「産業全体を理解した人材を輩出する」（大室校長）のが狙いだ。英語教育にも熱心で、毎朝10分ずつ身近な話題や歌に英語で触れるリスニング練習やスピーチコンテストを開催するなど「使える英語力」の習得に取り組んでいる。生徒

数は、7日に入学した1年生が212人（女子88人）、2年生は206人（同81人）。

東日本